

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 加茂高等学校 学校運営協議会（第1回）
- 2 開催日時 令和6年6月18日（火） 16:00～18:00
- 3 開催場所 加茂高等学校同窓会館2階会議室
会議開催後、委員による授業参観（定時制）を実施した。
- 4 参加者
- | | | |
|-----|-------|--------------------|
| 会長 | 川合俊治 | 全日制PTA会長 |
| 副会長 | 松井彰良 | ウインズコーポレーション 代表取締役 |
| 委員 | 今井一彦 | 司法書士 |
| | 尾関里佳 | 地域代表 |
| | 迫田直美 | 定時制教育振興会長 |
| | 松尾和樹 | 可児市議会議員 NPO法人縁塾 |
| | 武市由紀子 | 元特別支援学校校長 |
| 学校側 | 森川賢二 | 校長 |
| | 高水正明 | 副校長 |
| | 庄司幸宏 | 教頭 |
| | 松久潤 | 教頭 |
| | 津田健介 | 教務主任（全日制） |
| | 尾関清光 | 教務主任（定時制） |
| | 水口智人 | 生徒指導主事（全日制） |
| | 武藤秀彦 | 生徒指導主事（定時制） |
| | 渡辺純也 | 進路指導主事（定時制） |

5 会議の概要（協議事項）

(1) 令和6年度学校教育目標・具体的重点目標について

【全日制】

- ・令和6年度教育指導の重点及び学校経営計画
- ・令和6年度各分掌の現状と課題及び年間目標と具体的取組

質問1：学校改革について、「進学校として今後どうなっていくのか」といった保護者や地域から不安な声を聞く。学科改編により、学校はどのような方向に向かってくのか。

⇒「探究を柱とした進学型の新しい普通科」としての「文理探究科」を目指している。「探究的な学び」の充実を図り、かつ伝統的な理数科及び普通科の実績を継承した学科にしていく。あくまで、文理探究科は、これまでの進学校としての立場を継続しつつ、さらなる教育内容の充実と発展を目指して行う改革である。

質問2：「文理探究科」については、地域への広報が必要ではないか。

⇒価値観の多様化や変化の激しい時代に対応する新しい学力をつけさせることをねらいとした普通科の改革であることを丁寧に説明する必要がある。

地域の中学校を中心に説明会を行い、本校オープンキャンパスなどでも積極的

に広報に努めていきたい。

質問 3 : 探究の学習に関わる教員への負担が大きくなることが考えられる。教員定数の増加など具体的な対応策はあるのか。

⇒教員数の補充はないが、探究活動のコーディネーターが 1 人配置される予定である。

質問 4 : 文理探究科になることで、大学入試への対応が変わっていくのではないのか。

⇒現在の指導が大きく変わることはない。探究を生かした入試への対応を行いつつ、一般入試で受験する生徒には一般入試に対応できる学力を身に付けられるように指導していく。

質問 5 : クラス編成などはどのように変わるのか。

⇒クラス編成の大枠は現在と基本的には変わらない。授業に関しては、探究の学びである学校設定科目もあるが、普通科の各教科・科目の授業を今まで通り行う。文理探究科になるからといって、すべての授業が探究に関する授業になるわけではない。

質問 6 : 不登校や長欠の生徒に対して、どのような対応をしているのか。

⇒面談や保護者との連携など、個別に対応をしている。また、学校に常駐するスクール相談員や、スクールカウンセラーに繋いだりもしている。

質問 7 : 教育相談的な配慮が必要な生徒は、教員から声をかけて S C にかかるのか、生徒から希望して S C にかかるのか。

⇒両方である。「心のアンケート」などの訴えから S C に繋ぐ場合もあれば、教員から変化に気づき声をかけて S C に繋ぐ場合もある。

質問 8 : 職員の出勤時間と生徒の登校時間にずれはないのか。

⇒職員は、7 : 3 0 ~ 8 : 0 0 くらいに出勤している。生徒は、部活動の朝練習などがありまちまちであるが、多くの生徒は 8 : 0 0 くらいに登校している。

質問 9 : 予鈴による遅刻指導をすることにより、自転車マナーを守らない生徒が増えるのではないのか。現在までの交通事故の状況はどうなっているのか。

⇒自転車のマナーについては、予鈴による遅刻指導が自転車のマナー違反につながらないように啓発する。また、交通事故に関しては、4 月から大きな事故は起きていない。

意見 1 : 新しく文理探究科に変わることによって、社会で必要な力が付くと考えている。地域の方々が抱く不安とのギャップを埋めてほしい。伝え方によって地域や保護者のこれからの学校に対するイメージは変わる。

意見 2 : 情報が少ないことで、保護者や地域は不安に感じる。生徒や学校に関する情報を積極的に発信することが学校の教育や取り組みに対する理解につながる。

意見 3 : 遅刻予備集団という表現があるが、遅刻は生徒の心の不調の訴えの場合もあるので、生徒個々の状況に配慮した指導に重点を置いたほうがよい。

意見 4 : 教務の I C T 活用を全教員ができるようにするという事はよい目標であるが、文面からは伝わりにくい。具体的などのような実践をするのか示せるとよい。

意見 5 : 最近の大学のオープンキャンパスには、保護者も参加する傾向がある。高校から発信する進路情報については、多忙な保護者のことを考えオンラインで実施するのもよいと考える。

【定時制】

- ・令和 6 年度教育指導の重点及び学校経営計画
- ・令和 6 年度各分掌の現状と課題及び年間目標と具体的取組

質問 1 : 進路指導の卒業生が語る会は非常に良い取り組みである。学校は、生徒の卒業後も卒業生とコンタクトを取っているということか。

⇒数年前から継続的に取り組んでいる。国籍に関わらず、仕事を続けている卒業生が自分の事を話す取り組みである。卒業生は、よく学校に相談に来ることがある。学校が、卒業生とつながりを持ち続けているからできるが、一方で、教員が異動になっても卒業生と関り続け、変わらぬ指導をしていけるかが課題でもある。

質問 2：単位取得が難しい生徒はいるのか。

⇒実際にいる。補習をしたり、個別指導をしたりして単位を取得できるように指導している。最終的に単位が取れず進路変更をする生徒も若干名いる。

質問 3：適応障害的な生徒が、単位取得できない場合があるのか。

⇒適応障害か言語の問題かは分かりにくいだが、言語の問題で単位取得が難しくなっている傾向が見られる。

質問 4：仮設校舎で、全日の生徒と定時の生徒が施設を共有することはあるのか。

⇒定時制の生徒が登校する前に、全日制の生徒が特別教室として使用する事はある。また、定時制の生徒はロッカーに私物を入れている。以前のようにHR教室を定時制と全日制が共有しているということはない。

質問 5：定時制の部活動について、どのような活動をしているのか。

⇒サッカー、バドミントン、バスケットボール部がある。どの部活動も活発に活動しており、全国大会出場を決めている。

(2) 令和 6 年度探究活動計画（全日制）について

- ・令和 6 年度探究活動の方針と重点
- ・令和 6 年度総合的な探究の時間の年間計画（案）

意見 1：「地域の大人と語る会」（1 年生探究）を計画的実施していきたい。今まで出来なかったことにも積極的にチャレンジし、一人ひとり、個別最適な学びにつながるように協力したい。

⇒学科改編に関連付けて、様々な課題を発見し、他者と協力しながら、主体的に課題解決に向けて取り組める学びの計画をしていく。

6 会議のまとめ

第 1 回学校運営協議会では、全委員より今年度の本校の教育指導の重点及び学校運営計画について承認が得られた。今後は具体的目標や取り組みについて得られた意見を参考にして、組織的に教育実践を行う。全日制においては、学科改編に関して教育課程及び探究的な学びの立案を行い、学力の向上と進路希望の実現を目指す。定時制においては、地域の方々に対して、ホームページや一斉配信メール（すぐーる）などを活用して、学校の様子を知る機会を増やしていきたい。探究活動については、地域とのつながりを大切にした実践を積極的に行い、高校卒業後も主体的に学ぶ姿勢を持ち続け、社会生活の中で自分の能力や可能性を最大限に伸ばし自己実現ができるように生徒の育成を目指していきたい。